

今回は、抗がん剤の副作用の悪心・嘔吐の予防法について紹介します。

## ☆ 抗がん剤による副作用について～その 11～悪心・嘔吐について ☆

抗がん剤による悪心・嘔吐は、その症状が起こる時期によって次の3つに分けられます

### 1. 急性期悪心・嘔吐

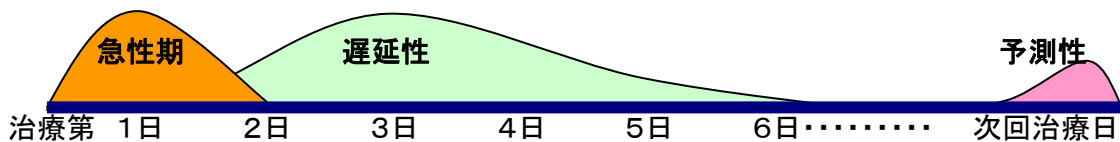
治療を受けた後～24 時間以内に出現するものを言います

### 2. 遅延性悪心・嘔吐

治療を受けてから 24～48 時間後に起こり、2～5日間続くものを言います

### 3. 予測性悪心・嘔吐

前回の抗がん剤投与で悪心・嘔吐を経験した場合などで、「次の抗がん剤のことを考えただけで吐き気が起こる」といった精神的な要因によって起こるものを言います



多くの化学療法では、抗がん剤治療時に予防的に吐き気止めの注射や飲み薬を使用します。



## 悪心・嘔吐に使用される薬と対処法について ☆

### 主な制吐剤一覧

5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬	カイトリル錠 <sup>®</sup> ナゼアOD錠 <sup>®</sup> グラニセロン注射液 <sup>®</sup> アロキシ注射液 <sup>®</sup>
ステロイド薬	デカドロン錠 <sup>®</sup> デカドロン注射液 <sup>®</sup>
NK-1受容体拮抗薬	イメンドカプセル <sup>®</sup>
消化器機能改善薬	プリンペラン錠 <sup>®</sup>
抗不安薬	ワイパックス錠 <sup>®</sup> etc

\* 薬の使い方や組み合わせは、患者さんや治療により異なりますので主治医へご確認ください。

制吐薬適正ガイドラインでは、治療の種類によって、悪心・嘔吐の起きやすさが分類されています。その分類に合わせて、悪心・嘔吐の起きやすさが高いものには、NK-1受容体拮抗薬・5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗薬・ステロイド薬の3剤の組み合わせを使用したり、中くらいのものには、5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗薬・ステロイド薬の2種類の組み合わせを用いることなどが推奨されています。

### その他の対処法

\* 食事ごとに吐いてしまうような激しい時は、1～2食、食事は差し控えてみましょう。この場合でも水分はできるだけとりましょう。水分は、電解質バランス飲料・栄養バランス飲料・ジュースなどが体力保持によいでしょう。食事の工夫については化療室ニュース No5 も参考にして下さい。

冷たい水でうがいしたり、氷をなめると効果的であると言われています。

但し水分摂取も困難な時には、点滴治療で水分や栄養を補う必要がありますので、早めに病院に連絡してください。

\* 体を締め付ける衣服は避けて、音楽を聴くなどリラックスすることを心がけるとよいと言われています。

悪心・嘔吐は抗がん剤の副作用の中でもつらい症状のひとつです。症状を軽減できる場合もありますので、我慢せずに医師・看護師・薬剤師などにご相談ください。

また、悪心嘔吐予防使用されるステロイド剤によって、糖尿病患者さんの血糖値が高くなるなど副作用が出現する場合があります。また、膠原病・リウマチや喘息などで炎症を鎮める・免疫を抑制するためにステロイド剤を使用されている場合があります。

そのために、主治医へ既往歴(がん以外の病気について)を伝えることが大切です。

文責:薬剤師 関根 井澤